



**GFSI**  
**Conference**  
Vancouver 2026

# エグゼクティブ・サマリー

食品の安全は、私たち全員の責任です

# 目次

バンクーバーでの飛躍	03
人間の力	05
取引のための言語	10
予防データとテクノロジー	14
コンプライアンスを超えて	18
2026年以降	24
当組織について	29



# バンクーバーでの飛躍

バンクーバーで開催された2026年グローバル食品安全イニシアティブ（GFSI）カンファレンスは、世界の食品安全コミュニティにとって決定的な節目となりました。

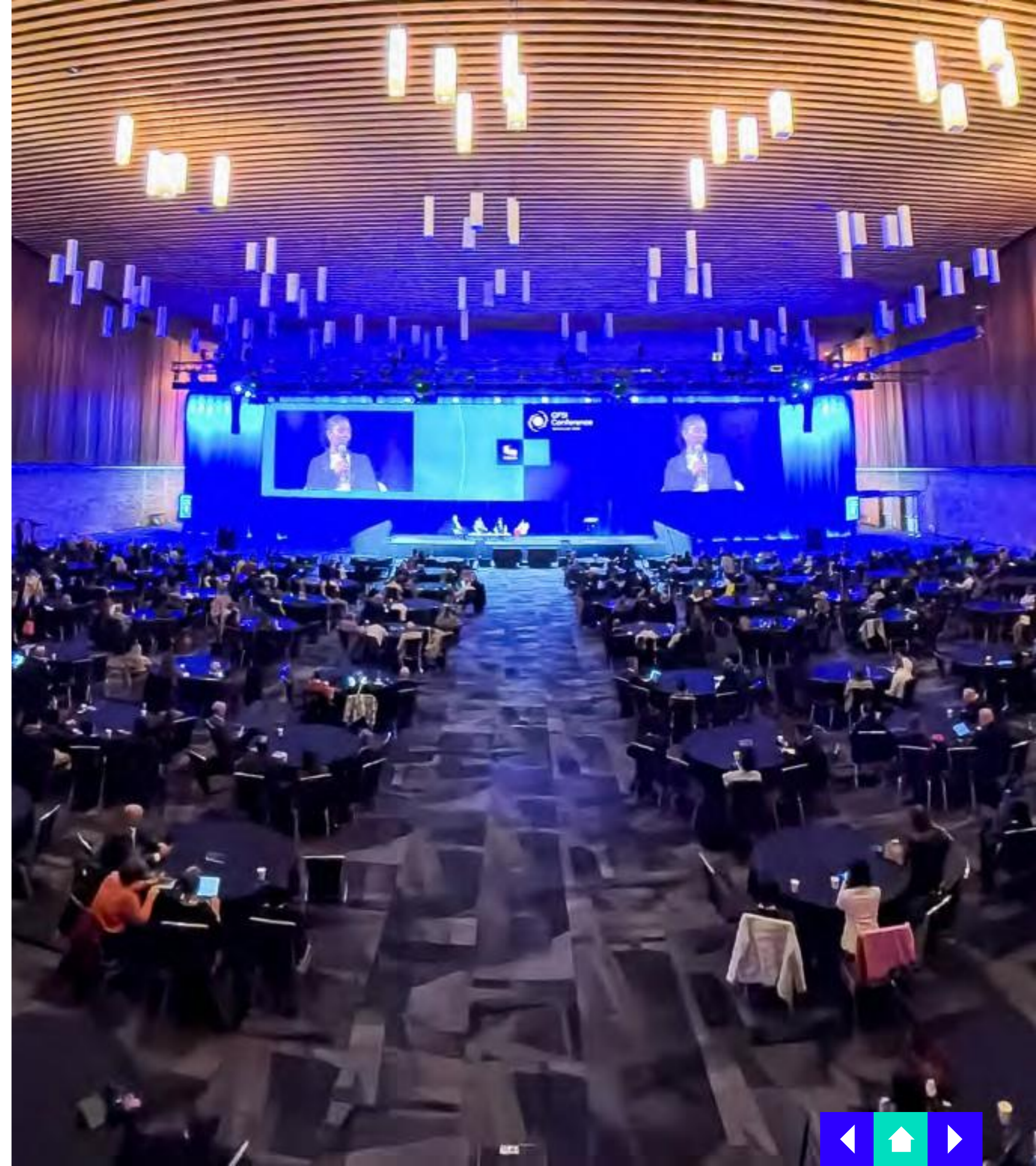
参加者600名 | 320社 | 35カ国

業界主導による25年にわたる進歩を祝うこのイベントでは、食品企業が数百万人の労働者と数十億人の消費者を守ることができるようにする、GFSIのベンチマーク要求事項がもたらす変革的な影響が強調されました。バンクーバーに集まった業界のリーダーたちは、世界中の人々に安全な食品を提供するという共通の目標に向かって、エコシステム全体での対話をさらに深めるよう呼びかけました。

小売業者、製造業者、規制当局に加え、認証の専門家、学者、サービスプロバイダーなど、600名を超える参加者が一堂に会し、公衆衛生の保護とブランド価値の確保という二つの課題に取り組みました。このイベントの最大の特徴は、一連の対話型ワークショップであり、参加者が率直で、時に厳しい議論に加わるよう呼びかけられました。これらは、長年にわたる部門間の壁を取り払い、コンプライアンス体制の信頼性を精査するために実施されました。

あるセッションでは、テクノロジーとデータが予防の「副操縦士」としてどのように機能するかが検討されましたが、全体を通じた議論の焦点は依然として「人的要素」に置かれていました。本会議では、リーダーシップと組織文化こそが安全の真の原動力であることが改めて強調され、テクノロジーは人間の専門知識に取って代わるものではなく、それを強化するものであるべきだということが参加者に示されました。最終的に、バンクーバーでの議論は、2026年の会議の核心的なテーマである「食品安全は皆の責任である」という点に集約されました。以下のページでは、バンクーバー会議の主な成果を、4つの重要な対話としてご紹介します：

- 人間の力
- 取引のための言語
- 予防データと技術
- コンプライアンスを超えて





Together  
we can build  
trust from  
fork to farm

Imagine the future  
we can all enable

Through our vast experience in science, technology, knowledge-based solutions and data insights, we are helping to shape the future of animal health for a world with a safe and sustainable food supply.

To join up the food chain, **join us today**



[Click here to find out more](#)

# 会話1 人間の力



人間の主体性は、共通のビジョンを現実のものへと変える原動力です。本会議では、食品安全はシステムの静的な結果ではなく、リーダーシップと共感に根ざした能動的な選択であることが強調されました。技術は人間の専門知識を支える戦略的な相棒であると位置づけることで、登壇者たちは、単なるコンプライアンスの遵守にとどまらず、人の命を守ることを最優先とする「ケア（care）の文化」を提唱しました。

## 事業を行うための前提条件としての食品安全

食品の安全は、依然として世界の食料システムの基盤であり、消費者の信頼を守る最大の砦であり、あらゆる戦略的判断の基準となるものです。

ダーク・ヴァン・デ・プット氏（モンデリーズ・インターナショナル会長兼最高経営責任者、GFSI共同スポンサー）は、食品安全を商業活動における絶対的な前提条件であると位置づけました。同氏は、モンデリーズ・インターナショナルのようなグローバル企業にとって、安全を事業の中核に据えるという取り組みこそが、役員室から現場に至るまで、組織全体で共有される価値観であり続けることを保証すると強調しました。

その後、メアリー・マキサック氏（執行副社長兼最高マーケティング責任者）は、ロブロウ社が安全性を中核的な企業アイデンティティにどのように組み込んでいるかについて解説しました。カナダ最大の小売企業である同社は、安全性を単なるコンプライアンス上のコストではなく、戦略的な柱として位置づけることを示しています。こうした視点は、安全が不可欠の要件であることを私たち全員に再認識させてくれます。サプライチェーンのどの段階でも問題が生じれば、業界全体の評判に影響を及ぼすからです。食品安全のプログラムへの経営陣による積極的な関与により、食品企業は消費者の信頼を守る役割を果たし続けることができます。

「食品会社である以上、食品の安全性を妥協することは決してできません。これは、全従業員、お客様、そして株主の皆様にとって、決して譲れないことです。」

ダーク・ヴァン・デ・プット  
モンデリーズ・インターナショナル会長兼最高経営責任者、GFSI共同スポンサー



## コミットメントの文化の定着

役員会の戦略を現場の行動へと落とし込むには、構造的な枠組みと、それを実行に移すための確実な手段の両方が必要です。キャロル・ウォレス氏（セントラル・ランカシャー大学食品安全管理学名誉教授）とジュリアン・コックス氏（ニューサウスウェールズ大学工学部副学部長）は、[GFSIの「食品安全文化に関する見解書」](#)の最新版を発表しました。この文書は、組織文化の基盤（ビジョン、ミッション、人材）が、事業全体において具体的な文化の要素（ハザードおよびリスクの認識、一貫性、適応性、継続的改善）へと確実に反映されているかを評価する際に、経営幹部を支援するものです。

これをグローバルレベルで実現するため、ビアンカ・コルン（コーポレート品質・食品安全ガバナンス担当ディレクター）は、マースが専用のデジタル学習プラットフォームを活用し、世界中の事業部門において食品安全と品質に関する能力を構築している仕組みについて詳しく説明しました。この取り組みは2年以内に、1万5,000人以上の学習者と800社のサプライヤーに普及し、10万件以上の学習修了を記録しました。このインフラにより、組織は従業員に対し、リスクをリアルタイムで管理するために必要な実践的な知見を提供できるようになりました。

しかし、本会議のいくつかのセッションで指摘されたように、デジタルツールは、それを利用する人々を支えるものであってこそ効果を発揮します。従業員には、日々の行動に対する「自分なりの理由」が必要です。「食中毒防止同盟（Alliance to Stop Foodborne Illness）」のプログラム・ディレクターであるヴァネッサ・コフマン氏は、あらゆるデータポイントの背後には、必ず人の物語があるということを力強く訴えました。企業が、食中毒の被害に遭った人々の実体験を研修に取り入れることで、「ケア（xcare）の文化」が育まれるのです。

## 食品安全文化に関する新たな提言

バンクーバー会議の最大の目玉は、『[『A Culture of Food Safety（バージョン2.0）』](#)の発表でした。セントラル・ランカシャー大学のキャロル・ウォレス教授は、180件以上の学術・業界資料を基に改良された枠組みを解説し、文化を単なる「ソフト」な概念から、測定可能な戦略的資産へと発展させました。

更新されたGFSIのポジションペーパーでは、意図と実行の間のギャップを埋めることを目的とした二層モデルが導入されています：

- **組織の基盤** ビジネスの「DNA」——リーダーシップ、価値観、そして目的。
- **具現化された実践**：農場から食卓に至るまでの安全を確保する、目に見える日々の行動。

本論文では「ビジョンとミッション」、「人材」、「一貫性」、「適応力」、「リスク認識」という5つの核心的な側面を特定することで、食品安全事業における共通言語を確立しています。ウォレス教授が指摘したように、その目的は、監視されている時に「正しいことを行う」ことにとどまらず、安全性を組織の基盤に深く根付かせ、当然のこととして「すべてが正しく行われる」ようにすることにあります。

[ポジションペーパーの全文をお読みください](#)



「文化は単なるプロジェクトではありません。コミュニケーションを絶えず続け、学びを継続させ、それがあらゆるものに根付くようにすることなのです。」

キャロル・ウォレス教授  
食品安全管理学名誉教授  
セントラル・ランカシャー大学





「食品の安全は感覚的なものです。匂いを嗅ぎ分け、清掃の細かな違いに気づき、食品安全の文化を感じ取る能力が求められます。デジタル化やAIは副操縦士のような役割を果たしますが、船長は依然として人間なのです。」

ステファン・トロンプ  
代表取締役  
IFS Management GmbH

## 「ヒューマン・イン・ザ・ループ」

強靱な安全システムは、人間の判断力によって支えられています。人間の判断力こそが、技術的なアウトプットを検証するために不可欠な微妙な違いや専門的な見識をもたらすのです。

「コンプライアンスを超えて：実社会にインパクトを与える食品安全監査」と題されたセッションでは、認証プログラムの責任者たちが、単なる「チェックリストの確認」から、食品施設における実際の行動やパフォーマンスの評価へと移行する方法について検討しました。

カナダGAPの事務局長であるヘザー・ゲイル氏は、「焦点は人に置くべきだ」と強調しました。

「テクノロジーには限界があります」。SQFIの食品安全評価責任者兼FMI上級副社長であるジジ・ヴィータ氏は、この点についてさらに詳しく説明し、ソフトウェアはデータを検証することはできても、その背後にある信頼性を評価できるのは人間の観察者だけだと指摘しました。彼女は、「真の監査の真価は、監査員が画面の向こう側を見据え、安全文化に対する人々の取り組みを評価できる能力にあるのです。」と強調しました。

同様に、「食品安全のイノベーション：ケータリングの未来」と題されたセッションでは、航空会社の機内食提供やスーパーボウルなどの大規模イベントといったプレッシャーの高い環境において、人間の直感がいかに重要であるかが強調されました。こうした場面では、単なる遅延から世界的なパンデミックに至るまで、組織は予期せぬ混乱に備えるため、継続的なモニタリングやストレステストを最優先事項としています。

ゴールドバーグス・グループの食品安全・品質担当副社長であるドム・ミティアル氏と、コンパス・グループの食品安全・品質保証担当副社長であるトム・フォード氏の両名も、同様の見解を示しました。危機的状況においては、テクノロジーそのものよりも、意思決定、指揮系統、そしてリーダーシップの方が重要になります。テクノロジーは膨大な量のデータを処理したり、単調な作業を自動化したり、リスクを洗い出したりするのに役立ちますが、安全性や方針に関する最終的な決定を下すのはやはり人間なのです。

## 科学の人間的な側面

ウェンディ・ラインハート・カプサック氏（国際食品情報評議会（IFIC）会長兼最高経営責任者）は、IFICの年次調査から得られた知見を共有し、食中毒や化学物質、重金属への懸念を背景に、食品供給に対する消費者の信頼が低下していることを指摘しました。同氏は、科学に基づく安全性情報において欠けている要素は、多くの場合、人間味のある語り口で伝えられる、簡潔で関連性の高い事実の欠如であると強調しました。彼女は業界に対し、共感をもって先導し、簡潔なデータで裏付け、明確で実践可能な指針で締めくくられるよう促しました。食品企業は、誠実な姿勢を示すことで、技術的なリスク評価を、ストレスや混乱を抱える一般市民の心に響く「配慮の物語」へと変えることができるのです。



High-value, science-based  
**food safety, quality** and  
**sustainability** solutions



Moving from **Test Results**  
to **Actionable Insights**

[www.merieuxnutrisciences.com](http://www.merieuxnutrisciences.com)

[www.biomerieux.com](http://www.biomerieux.com)

Better Food. Better Health. Better World.

Your Trusted Partner In Augmented Diagnostics

# 会話2

## 取引のための言語



## 複雑かつ急速に変化する市場において、透明性は、グローバルなサプライチェーンを円滑に機能させるための信頼の基盤となります。

成功には、効率的な物流だけでは不十分です。小規模農家から小売店の棚に至るまでの全行程にわたる、トレーサビリティ、相互運用性、そしてリアルタイムの可視化への取り組みが求められます。本会議での議論では、認証を共通言語として活用することで、より機動的な取引ルートが促進され、最も複雑なネットワークであっても説明責任が確実に担保されることが示されました。

### リスク予測のための情報共有

グローバル化した経済において、リスクが生産ラインに及ぶ前にそれを予測する能力は、大きな強みとなります。「信頼できる業界連携」と題されたセッションでは、企業が競争促進的な匿名化データ共有を通じて、いかに自発的に「共有インテリジェンス」モデルへと移行しているかが検討されました。BioMérieuxおよびMérieux NutriSciencesの専門家による支援のもと、Mondelēz International、Chobani、Nestléの主要幹部らが、製造業者が「早期警報システム」にどのように貢献し、そこからどのような恩恵を得られるかについて議論しました。新たな汚染物質や病原体の急増に関する、地域や商品にまたがる広範なデータを分析することで、企業は単独では得られないリスク状況の全体像を把握することができます。このアプローチにより、各リーダーは、原材料の調達や検査手順について、より情報に基づいた意思決定を行うことが可能となり、サプライチェーンの信頼性を高め、リスクへの曝露を低減することができます。

## 循環型サプライチェーンにおける透明性の確保

製造業者や小売業者がサステナビリティへの取り組みを加速させる中、環境目標と食品安全の融合が極めて重要になってきています。循環型経済への移行に伴う技術的課題について、セドリック・デヴァー氏（コンシューマー・グッズ・フォーラム、サステナビリティ担当ディレクター）が移行の規模に関する背景を説明し、トラ・アラデ＝ランボ氏（マッケイン・フーズ、食品安全・品質担当副社長）とフィリップ・ミロジェビッチ氏（アムコール、研究開発マネージャー）は、再生素材の含有率増加が安全性に及ぼす影響について議論しました。

最大の課題は、使用済みリサイクル（PCR）素材が食品の安全性を損なう可能性のある化学物質の移行リスクをもたらさないようにすることです。会議の参加者たちは、持続可能な包装への移行には、厳格な検証と「安全第一」の設計理念が必要であると指摘しました。素材の品質と環境負荷の両方を優先することで、メーカーは循環型社会が消費者の信頼を損なうのではなく、支えるものであることを保証できます。コンシューマー・グッズ・フォーラム・プラスチック廃棄物連合とGFSIの目標が一致していることは、持続可能性と安全性が不可分のものであることを強調しています。

「持続可能性、食品の安全性、そして品質のバランスは、私たちが目指す理想です。安全性を優先すると、しばしばイノベーションの妨げになると見なされがちですが、私たちの目標は、その両方を両立させることです。つまり、どちらかを犠牲にすることなく、バランスを保つように努めているのです。」

トラ・アラデ＝ランボ  
食品安全・品質担当副社長  
マッケイン・フーズ



## エンドツーエンドのサプライチェーン可視性の強化

製品の完全性を確保するには、複数の関係者が関わる複雑なサプライチェーン全体にわたるシームレスな可視化が不可欠です。「スマート・サプライチェーン：店頭で食の安全を守る」と題されたセッションでは、米国冷凍食品協会（AFFI）、BSI、カーギル、ドールの各リーダーが、製品がグローバルネットワークを移動する中で安全基準を維持するための運用上の課題について考察しました。議論では、基準とリアルタイムのデータ可視化により、食品の安全性に影響が及ぶ前に、潜在的なボトルネックや温度の逸脱を特定する方法に焦点が当てられました。製造業者と物流パートナーの間で安全プロトコルを統一することで、企業はより堅牢で予測可能な商品の流れを確保することができます。

この「可視性」への注力と相まって、Kersiaの代表者であるカトリン・ターヴィー氏（キアアカウント担当グローバル食品安全担当副社長）とキャス・チャップマン氏（食品キアアカウント担当グローバルヘッド）、ならびにラクタリス、メリュー・ニュートリサイエンス、リフレッシュの各社から招かれたゲストが、サプライチェーンのレジリエンスにとって協働型検証モデルがいかに不可欠であるかを共有しました。彼らは、従来の「監視」から脱却し、共通の検証フレームワークへと移行することで、より安定的で柔軟性のある取引エコシステムが構築されると主張しました。

## 透明性の基盤としての生物学的証明

消費者や規制当局から現在求められているレベルの透明性を確保するため、業界は従来の文書記録にとどまらず、生物学的検証へと目を向けています。メルク・アニマル・ヘルスが主催した全体会議「コンプライアンスから信頼性へ：食品トレーサビリティの新たなフロンティア」では、DNA TraceBack®などの技術を用いた「生物学的証明」という概念が紹介されました。この変革により、各企業は製品の正確な出所を絶対的な確信を持って確認できるようになり、誤りの生じやすい紙媒体やデジタル記録への依存から脱却できます。小売業者や製造業者にとって、この高度な検証はデジタル上の信頼性に関する新たな基準を確立するものであり、安全性の主張が単なる手続き上の遵守ではなく、科学的根拠によって裏付けられていることを保証します。

## よりスマートなサプライチェーンに的を絞った規制監督

カナダ保健省食品・栄養局のジョイス・ボイエ局長と、カナダ食品検査庁（CFIA）食品安全・消費者保護局のエブリン・スー事務局長は、国家レベルの近代化に関する事例研究を発表しました。カナダのモデルは、業界のデータを活用して公衆の保護を強化する、リスクベースの自動化された監視体制への移行に重点を置いています。

これには、食品の生産・流通における急速な技術革新に規制が確実に追いつくよう、政府と民間セクターが緊密に連携することが求められます。輸入届出やリスク評価の自動化システムを導入することで、規制当局は最も必要とされる分野にリソースを集中させることができ、国内企業と国際的なパートナー双方にとって、より効率的で安全な環境を構築することができます。



「これはデータの問題ではなく、実際には可視性の問題です。可視性がなければ、どうやってリスクを効果的に管理できるでしょうか？」

アレックス・ホアン  
トレーサビリティおよび品質システムマネージャー  
チポトレ・メキシカン・グリル



# 5 THINGS

## every food safety leader should know about AI

Embracing AI early allows food safety leaders to influence how it's governed, applied, and trusted, so it strengthens food safety rather than introducing new risks.

### 1 Embrace AI early so you can influence how it's used

AI is entering food safety whether leaders engage with it or not. Early engagement allows food safety leaders to shape governance, guardrails, and use cases so AI strengthens prevention, culture, and trust.

### 3 The goal isn't more data. It's better decisions

Dashboards alone don't reduce risk. Impact comes when data moves teams from visibility to insight to guided action.

### 2 AI should amplify food safety expertise, not replace it

The strongest programs use AI to remove non-value-added work and sharpen prioritization, freeing experts to focus on judgment, accountability, and prevention.

### 4 Not all AI is the same, and it doesn't belong everywhere

Disciplined application matters. Leaders need to understand where different forms of AI add value and where they introduce unnecessary complexity or risk.

### 5 Food safety impact scales when the value chain aligns around shared signals

Data enables stronger alignment across suppliers, operators, partners, and corporate teams, reinforcing that everyone has a vital role in reducing risk.

**Ready to put these principles into practice?  
Connect with your Ecolab representative to learn more.**

[Ecolab.com/GFSI](https://Ecolab.com/GFSI)

**ECOLAB**<sup>®</sup>



# 会話3

# 予防データとテクノロジー



講演者やパネリストたちは、技術的な詳細解説や全体会議を通じて、業界のリーダーたちがすでにどのようにテクノロジーやAIを拡大・活用しているかを、実践的な実例を用いて紹介しました。これらの活用事例は、事後的な検知から予測的な事前対応への転換を示しています。つまり、デジタルツインや機械学習といったツールを活用し、リスクが物理的な世界で顕在化する前にシミュレーションを行うのです。膨大なデータセットを簡潔な現場指示に変換することで、これらの革新的なシステムは、高度な技術的知見を工場現場での一貫した実行へと確実に結びつけています。

## 予防のための戦略的エンジンとしてのAI

人工知能は、施設レベルの安全性を支える機能的な原動力となっています。エコラボ（Ecolab）とカーシア（Kersia）が主導したセッションでは、機械学習を戦術的に活用し、機器の性能、水質分析データ、衛生プロトコルなど、多種多様なデータセットを人間の能力を超える速度で処理することに焦点が当てられました。これにより、安全担当チームは隠れたパターンを特定し、トラブルが発生する前に介入することが可能になります。この技術の戦略的価値は、食品安全チームにとっての戦力増強要因となり、最も重大なリスクをリアルタイムで可視化できる点にあります。

「データや基準、監査体制が不足しているわけではありません。私たちが直面している課題は、監視員が食品安全について適切な判断を下せるよう、必要なデータを適切な形式で、適切なタイミングと場所で提供できるかどうかという点です。」

トッド・レッドウッド  
BSI コンシューマー・リテール・フード部門 グローバル  
・マネージング・ディレクター



## 予測型公衆衛生のための規制の枠組み

民間企業が分析ツールを開発する一方で、世界各国の規制当局は、それらを大規模に展開するために必要なインフラ整備に注力しています。米国食品医薬品局（FDA）のドン・プレーター（食品担当次長）は、「よりスマートな食品安全の新たな時代」に向けた同局のビジョンを共有しました。この戦略の最大の特徴は、データの相互運用性への移行にあります。FDAのアプローチは、産業界と規制当局の間で情報がシームレスに流通することを可能にする、調和のとれたデータ標準の策定に依拠しています。戦略的な要点は、AIの効果はそのアクセス可能なデータの質に左右されるという点です。FDAは、共通の「デジタル言語」を構築することで、食品供給網全体を俯瞰できるシステムを実現し、国際的なレベルでの脅威の予測を可能にすることを目指しています。

## 体系的な将来予測のためのデジタルツインとシミュレーション

予防の次のフロンティアは、リスクが現実世界に現れる前にそれをシミュレーションすることにあります。「AIを活用した食品安全」と題された分科会では、ロジャー・ダラ博士（グエルフ大学コンピュータサイエンス学部准教授兼データ戦略ディレクター）やアコシュ・ヨズヴィアク博士（欧州食品安全機関（EFSA）データ諮問グループ議長）ら専門家が、世界的な食料システムをシミュレーションするための「デジタルツイン」の活用について詳しく解説しました。センサーの計測値からソーシャルメディアのトレンドに至るまで、多様なデータセットを統合することで、これらのモデルはリーダーたちが潜在的なアウトブレイクに対する「もしも」のシナリオを検証することを可能にします。このレベルの先見性はペプシコ社で実践されており、同社のマヒール・バギア氏（副社長兼最高食品安全・品質保証責任者）は、同社がいかにして予測気象モデルを活用し、収穫の数ヶ月前から作物のマイコトキシンリスクを予測し、データに基づいたグローバルな調達戦略への即時の調整を可能にしているかを説明しました。

同時に、ディーン・エイキンス＝ルーエンタール氏（モンデリーズ・インターナショナル、グローバル食品安全・品質システム担当シニアディレクター）は、生成モデルを活用することで複雑な製品ポートフォリオ全体にわたるリスク評価をシミュレーションでき、これにより経営陣は、原材料が1つでも出荷される前に、調達やサプライチェーンを先手を打って見直すことが可能になると強調しました。マルク・ポッツラー氏（BCE、PCQI、レントキル・インシヤル テクニカルサービスマネージャー）は、この先見的な考え方を施設レベルに適用し、AIを統合した害虫駆除が、施設管理を事後対応型の処理からリアルタイムのリスク可視化へとどのように変革するかを実演しました。

## AIを活用した現場の実行ギャップの解消

大量販売を行う小売業や外食産業において、依然として最大の課題は「人的要因」です。ロバート・プレベンダー氏（Yum! Brands 食品安全・品質保証責任者）は、6万店舗からなるネットワークにおいては、安全システムが十分に直感的なものでなければならず、どの従業員も初日から手順を完璧に実行できる必要があると強調しました。レストラン・ブランド・インターナショナルの国際品質保証責任者兼グローバルQA CoE責任者であるエドゥアルド・マルティネス・デベサ氏は、紙ベースのシステムからデジタルシステムへの移行を、安全性を「民主化」するための極めて重要な手段であると位置づけました。これにより、業務の成熟度や言語の壁を乗り越え、マイアミからマドリッドに至るまで、単一の「業務上の真実」を維持することが可能になると述べました。

この複雑な課題に対する実用的な解決策として、Testo Saverisは、誤った指示による「潜在的なリスク」を排除するために、大規模言語モデル（LLM）を活用する事例を紹介しました。多様な人材が母国語で安全に関する指示にアクセスできるようにすることで、これらのツールは、あらゆる現場において、高いレベルのコンプライアンスが正確かつ実践的な行動へと確実に結びつくことを保証します。



「行動を伴わないデータは、かえって足かせとなります。食品安全に効果をもたらすためには、そのデータを業務パートナーと共有する必要があります。」

サマンサ・ゼップ  
スターバックス 小売食品安全業務 ディレクター





# *from Farm to Fork* Food Safety *is* our reality

**Kersia** takes care at every stage of the food chain to prevent risk and protect what matters most: people, animals and the planet.

From primary production to food processing and food service environments, **Kersia supports food businesses through preventive controls, operational expertise and science-based approaches.**

**By strengthening hygiene practices, biosecurity and risk management,** we contribute to the robustness and reliability of food safety systems, supports resilient value chains and **helps protect consumers worldwide.**

**Inventing  
a Food Safe World**



[kersia-group.com](https://kersia-group.com)



# 対話4 コンプライアンスを超えて



会議を通じて、参加者は、認証と世界的な受容との間の信頼の溝を埋めるという課題に直面しました。そのためには、形式的な監査を排し、単なるコンプライアンスの遵守にとどまらず、厳格な説明責任を重視する、透明性の高い報告モデルの構築が求められます。

## 信頼のギャップを埋める

本講演では、技術的なコンプライアンスと監査への世界的な信頼との間にある具体的な隔たりに焦点を当て、「コンプライアンスへの安易な満足」を徹底的に排除する必要性を訴えました。特別セッションでは、Neogen社の技術専門家に加え、業界の著名なベテランであるサバヌール・デミルチ氏（Mérieux NutriSciences社、北米エキスパートパートナー担当副社長）、スザンヌ・ガルシア＝シャウアーマン氏（Mondelēz International社、グローバル品質・食品安全・規制関連業務担当上級副社長）、ロイ・カービー（FoodsafERM パートナー）、アレハンドロ・マッツォッタ博士（チョコバニ グローバル品質・食品安全・規制業務担当シニアバイスプレジデント）、ラケル・メデイロス（ネスレ 食品安全責任者 - 化学的汚染物質および包装担当）、ハネス・ポウゼール（バイオメリュー データおよびゲノミクス担当グローバルソリューションアーキテクト）といった業界の著名なベテランたちが登壇しました。

これらの指導者たちは、過去の成功が誤った安心感を生むことのないよう警告しました。その代わりに、25周年記念会議の登壇者たちは、透明性のある報告と既存のプロセスに対する厳格な評価を強く提唱しました。継続的な改善を最優先とする文化を育むことで、業界は今後25年間にわたり、食品安全が各企業にとって積極的かつ進化し続ける取り組みであり続けることを保証できるのです。

これは決して机上論ではありません。メイプルリーフ・フーズの食品安全・品質・技術サービス・衛生担当副社長であるスピル・マリナキス氏は、システム不備が引き起こす人命の損失という悲劇に焦点を当て、食品安全の現実を踏まえた議論を展開しました。彼女は、22名の死者を出した2008年のカナダにおけるリステリア症集団感染の事例を参加者に再認識させました。この数字は、メイプルリーフがなぜ食品安全に全力を注いでいるのかという理由を、痛切に語るものです。

彼女は業界に対し、冗長で「形式的な」監査が横行しているという現実と向き合うよう求めました。これは、現在の第三者認証モデルに対する完全な信頼が依然として欠如していることを示唆するものです。この指摘は、アレハンドロ・マッツォッタ博士（チョコバニ社 グローバル品質・食品安全・規制担当上級副社長）によって裏付けられました。同氏は、卓越性の追求を戦略上の必須課題であると位置づけました。両リーダーにとって、これらのセッションは現状への挑戦であり、単なるコンプライアンスの遵守にとどまらず、食品安全をブランドの信頼性を支える中核的な要素へと高めることが重要であることを会場の皆さんに改めて認識させるものでした。その目的は、透明性が高く、大きな影響力を持つ取り組みを通じて、すべてのステークホルダーの信頼を獲得することにあります。



「私たちの目的は、私たちが作る食品に対して、皆様に信頼を持っていただけるようにすることです。今こそ、信頼を取り戻し、無駄を省き、影響力を高める時です。」

スピル・マリナキス  
食品安全・品質・技術サービス・衛生担当副社長  
メイプルリーフ・フーズ



## 食品の安全は、私たち全員の課題です

この信頼のギャップを解消することは、単一の組織だけが担うべき課題ではなく、本会議の核心的なテーマに通じるものです。GFSI運営委員会の共同議長であるハワード・ポプーラ氏（The Kroger Co.、企業食品技術・規制コンプライアンス担当副社長）とマーク・フライリング氏（General Mills、グローバル食品安全・品質担当副社長）は、グローバル化した市場において、安全は単独では保証できないと強調しました。それには、個々の企業の枠組みを超えた、責任を共有するモデルが必要です。

この責任ある取り組みは、アレック・キリアキデス氏が司会を務め、Agraya、Canada GAP、IFS、SQFという4つの主要な認証プログラムオーナー（CPO）が登壇したパネルディスカッションの中心テーマとなりました。議論では、監査の公正性とデータに基づく信頼性が、強靱な食品安全システムの基盤としてどのように機能するかに焦点が当てられました。これらのステークホルダーは、共通の目標に向けて力を合わせることで、GFSIベンチマーク要求事項の厳しい基準が、一貫性のある成果重視の監査実行に対する新たなコミットメントによって支えられていることを示しました。



「このまま今のやり方を続けていけば、私たちは現実の『形式的なバージョン』を監査し続けるだけで、実際に何が起きているのかには目を向けられないでしょう。」

エルメ・コエツァー＝  
ボースマ  
CEO  
アグラヤGmbH



## 協働による問題解決：監査ワークショップの未来

継続的な改善への取り組みは、4回の双方向型ワークショップを通じて実践されました。「監査の未来」をテーマとしたこれらのセッションには、160名のステークホルダー（製造業者、小売業者、認証プログラムオーナー、認証機関、監査員、学者、規制当局、認定機関）が一堂に会し、「一度認められれば、どこでも受け入れられる」という目標の実現に向けた障壁について議論しました。こうしたステークホルダーを問題解決に巻き込むことで、ワークショップでは「継続的保証」を監査サイクルに組み込む方法を模索しました。これらの議論の成果は、業界の今後の歩みを導くためのロードマップ案としてまとめられます。

## 「監査の未来」ワークショップ

バンクーバー会議の大きな特徴は、業界各分野の代表者が一堂に会した、活発で双方向的なワークショップのシリーズでした。参加者は、以下の3つの根本的な問いに向き合うよう求められました：

1. 適用範囲と認知度：「一度承認されればどこでも受け入れられる」という理念が世界的な現実となるのを妨げている主な障害は何でしょうか？
2. 継続的改善：この概念は監査のエコシステムにどの程度定着しているのでしょうか。また、それを強化するためにはどのような仕組みが必要でしょうか。
3. リスク管理：現在のGFSI承認スキームの監査は、サプライヤーのリスク評価を効果的に支援しているでしょうか。また、その効果をどのように向上させることができるでしょうか。

共通のテーマと課題：

- 信頼の欠如：率直な議論を通じて、地域ごとの差異、顧客固有の追加条項、および監査員の能力のばらつきに起因する、根強い「信頼の欠如」が浮き彫りになりました。
- チェックリスト対実質：繰り返し指摘された点は、「書類上の形式的な作業」から、実際の現場での行動や、安全面での影響が大きい事象の評価へと転換する必要性でした。
- 予測的な考え方：参加者たちは、事後的な「スコア」から、「リスク予防」モデルへの移行を提唱しました。このモデルでは、データを活用して、失敗が発生する前にそれを予測します。

これらのワークショップは、新たな取り組みの第一歩となります。バンクーバーで得られた知見は現在、GFSIのベンチマークおよび監査の信頼性に関する今後の取り組みの指針とするべく、整理・分析が進められています。



「改善すべき点はたくさんありますが、まずは透明性を保ち、お互いを信頼することから始まります。難しい話し合いをする際も、それは継続的な改善に向けた取り組みの一環として行っているのです。」

エイミー・パークス  
グローバルFSQAガバナンスおよび規制コンプライアンス担当ディレクター  
ドール





## 共通の決意

この挑戦と改善のサイクルは、技術的な基準を超えたビジョン、すなわち「世界中の人々に安全な食品を」という理念によって、最終的に支えられているのです。スピーチの中で、ショーン・サマーズ氏（Pick n PayグループCEO兼GFSI共同スポンサー）とワイ・チャン・チャン（The ConsumerGoods Forumマネージングディレクター）は、変動の激しい世界市場においてこの基準を維持するために必要な決意について言及しました。本イニシアチブの25年にわたる実績は、この決意——安全が普遍的な権利であることを保証することが業界の責任である——という視点を通じてこそ、最もよく理解できるのです。

「誰もが重要な役割を果たしています。ステークホルダーやエコシステムがなければ、私たちは今日のような成果を上げることはできなかったでしょう。ネットワークを築き、つながり、他者の取り組みを理解することこそが、私たちが成長し続ける原動力です。」

ワイ・チャン・チャン  
マネージング・ディレクター、  
コンシューマー・グッズ・フォーラム





# SAFETY at your SIDE

Neogen® is dedicated to advancing modern food safety practices through data-enabled solutions for proactive risk management and holistic environmental monitoring.

We empower our customers with effective environmental monitoring solutions, expert guidance, and data-driven insights to help navigate the evolving food safety landscape. Together, we can help build a brighter future for global food safety. Let's take your environmental monitoring program to the next level.

**Download your copy of the 2nd Edition Neogen Environmental Monitoring Handbook**



[info.Neogen.com/ExploreTheNextChapter](https://info.Neogen.com/ExploreTheNextChapter)

The handbook was created in collaboration with Cornell University and food safety experts from around the world. This comprehensive guide offers a framework that can be tailored to help a wide range of food and beverage manufacturers implement an effective environmental monitoring program suited to their needs.



# 2026年以降

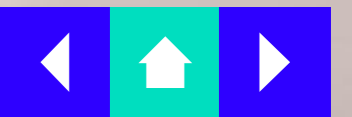


2026年のGFSIカンファレンスでは、世界の食品安全エコシステムの将来を確かなものにするためのツール、パートナーシップ、そして先見的なリーダーシップがすでに存在していることが確認されました。今後の進展は、食品安全を商業的・経営的判断に組み込むという「実行」にかかっています。業界のリーダーたちは、ケア（care）の文化を育み、デジタルトランスフォーメーションを受け入れ、監査システムを近代化することで、複雑な状況に対応しつつ、世界中の消費者の信頼を維持しています。

食品業界が今後25年を見据える中、その使命は変わらず「世界中の人々に安全な食品を届けること」です。本会議は、食品安全に携わる関係者にとって、互いの見解を共有し、学び合う貴重な機会となり、そこから得られた知見を改善への原動力へと変える場となりました。こうした協力の気運こそが、私たちが単に構造的な課題に反応するだけでなく、今後10年の世界の食品安全を形作る先見的な解決策を自ら設計していくことを可能にするのです。

「食品安全は、決して競争の場ではありません。それは当然のことです。私たちの行うすべてのことは相互に関連しており、だからこそ、私たちは真の意味で共にこの課題に取り組んでいるのです。」

ショーン・サマーズ グループ  
CEO ピック・アンド・ペイ  
およびGFSI共同スポンサー



# Rentokil Initial



## ADVANCED PEST MANAGEMENT **TO PROTECT FOOD SAFETY**

Powered by data-driven insights, innovative solutions and over 100 years of expertise, we're trusted by food businesses worldwide to mitigate pest risks and advance food safety standards.

We can be your collaborative partners in pest management, working with you to understand your business' unique challenges and goals to strive for a safer, pest-free tomorrow.



Find out how we can help with your pest control needs at: [rentokil.com](https://rentokil.com)



## 登壇者

モンデリーズ・インターナショナル グローバル食品安全・品質システム担当シニアディレクター

**ディーン・エイキンス**=**ルーエンター**ル博士
モンデリーズ・インターナショナル グローバル食品安全・品質システム担当シニアディレクター

**トラ・アラデ**=**ランボ**
マッケイン・フーズ 食品安全・品質担当副社長

**エリザベス・アンドー**=**ケッソン**
GFSI暫定ディレクター
コンシューマー・グッズ・フォーラム

**デビー・アタラ**
シニア・バイスプレジデント、グローバル・スタンダード担当GS1カナダ

**アベナ・リリー・ニャルコ・アウラ**
GFSI テクニカルマネージャー
コンシューマー・グッズ・フォーラム

**ジョセフ・パウ**マート博士
ネブラスカ大学FARRP所長、食品科学・技術学科教授

**マヒール・バギア**
ペプシコ社 副社長兼最高食品安全・品質保証責任者

**ジョイス・アイリーン・ポイエ**博士
保健製品・食品局 食品・栄養局 局長
カナダ保健省

**ゲイリー・ヴァン・ブレダ**
グローバル食品安全（食品・包装資材サプライヤー）および消費者製品安全担当局長
マクドナルド

ジョーシア・プリセニオウSGSネクサスマーケティングマネージャー

**ジョーシア・プリセニオウ**SGSネクサス
マーケティングマネージャー

**フィリップ・ブロン**スタイン博士
グローバル食品安全・品質保証担当上級副社長OSI Group, LLC

**ステファニー・バーチャード**
食品分野の専門家チーム責任者、Testo Saveris GmbH

**マーシー・バートン**
シニアクライアントマネージャー（NSF）

**チャン・ワイ**チャン
マネージング・ディレクター
コンシューマー・グッズ・フォーラム

**キャス・チャップマン**
食品主要顧客担当グローバルヘッド
カーシア

**ニディ・チャトウルヴェディ**
SGSNexus 事業開発マネージャー

**ケルビン・チェン**
品質保証責任者
ウー・マートおよびGFSI運営委員会メンバー

**エルメ・コエツァー**=**ボースマ**
CEO
アグラヤ社

**ヴァネッサ・コフマン**
「食中毒防止同盟」プログラム・ディレクター
食中毒防止

**キャサリン・コスビー**
食品安全・規制遵守担当シニアディレクター
ザ・クローガー社

**ミシェル・コーヴィー**
カスタマーサクセス担当副社長 GS1 US

**ジュリアン・M・コックス**
工学部の副学部長（国際・新興市場担当）
ニューサウスウェールズ大学（UNSWシドニー）

**ステファノ・クレア**
DNV シニアバイスプレジデント、グローバル・マーケット&インダストリーズ・ディレクター

**エリン・クロウリー**
ネオジェングローバル・ソート・リーダーシップ責任者

**ロジータ・ダラ**
准教授、データ戦略ディレクター、コンピュータサイエンス学部
グエルフ大学

**エドואルド・マルティネス・デベサ**
レストラン・ブランド・インターナショナル 国際品質保証責任者兼グローバルQAセンター長

**サバヌール・デミルチ**
エキスパート・パートナーズ担当副社長（北米）
メリュー・ニュートリサイエンス

**セドリック・デヴェール**
サステナビリティ担当ディレクター
コンシューマー・グッズ・フォーラム

**キャサリン・ドルフマン**
グローバル・テクノロジー・ソリューションズ、戦略的ソリューションおよびパートナーシップ担当リーダー
メルク・アニマルヘルス

**ケビン・ドイル**
エコラボ・デジタルのシニア・バイス・プレジデント兼最高デジタル責任者

**ベルトラン・エモン**
アンバサダー兼カルチャー・エクセレンス・リード、キャンブデンBRI

**ジェフリー・ファーバー**博士
JMファーバー・グローバル・フードセーフティ・コンサルティング；グエルフ大学食品科学科 客員教授

**ジョン・フィールド**
化学的健康リスク評価課長、包装・汚染物質部門、化学物質安全局、食品・栄養局
カナダ保健省／カナダ政府

**サイモン・フラナガン**
研究員 -グローバル食品安全
モンデリーズ・インターナショナル

**トム・フォード**
食品安全・品質保証担当副社長
コンパス・グループ

**ロビン・フォーギー**
食品安全・品質保証
コストコ・ホールセール

**パブロス・フラグ**コプロス
マース・ベットケア グローバル品質管理ディレクター

**マーク・A・フライリング**
グローバル食品安全・品質担当副社長兼GFSI運営委員会共同議長
ジェネラル・ミルズ

**ヘザー・ゲイル**カナダ
GAPプログラム 事務局長

**ナダ・ガレス**ネ=**アー**マンド
グループ品質・食品安全担当ディレクター、レフレスコ

**スザンヌ・ガルシア**=**シャウ**アーマン
シニア・バイス・プレジデント（グローバル品質・食品安全・規制対応担当）
モンデリーズ・インターナショナル

**サンジェイ・グマラ**博士
食品安全・科学担当上級副社長
米国冷凍食品協会

**アレックス・ホアン**
トレーサビリティおよび品質システム・マネージャー
チポトレ・メキシカン・グリル

**バトリック・ハスマン**
品質・CSRディレクター
ラクタリス

**シンディ・ジェンクス**
ピック・アンド・ベイ
ゼネラルマネージャー

**アコシュ・ヨズヴィ**アク
サイレオン研究所 食品・栄養科学およびAI部門責任者
欧州食品安全機関（EFSA）データ諮問グループ

**ウェンディ・ラインハート・カブ**サック氏（RDN）
会長兼最高経営責任者
国際食品情報評議会（IFIC）

**インティサル・カーン**
ネスレ 食品安全責任者

**ロイ・カービー**
パートナー（ FoodsafERM ）

**ピアンカ・コルン**
マース社 品質・食品安全ガバナンス担当ディレクター

**イザベル・クマール**
司会者・ジャーナリスト

**アレック・キリア**キデス
独立系食品安全コンサルタント兼ステークホルダー・フォーラム議長

**ジャスミン・ラシス**=**リー**
食品科学センター所長
メリュー・ニュートリサイエンスAQ - 食品科学センターおよびアレルゲン局
ディレクター - 社長兼取締役会会長

**スザンヌ・マーセン**
マネージング・ディレクター
ベター・ライフ・クオリティ・マーク財団（Stichting Beter Leven Keurmerk）

**メアリー・マキ**サック
エグゼクティブ・バイス・プレジデント兼最高マーケティング責任者（CMO）
ロブロウ・カンパニーズ・リミテッド

**オーレリー・マン**スール・ピリエ
DNA Traceback@ EURAM 責任者
メルク・アニマル・ヘルス

**スビル・マリナ**キス
食品安全・品質・技術サービス・衛生担当副社長
メーブルリーフ・フーズ

**トビアス・マット**
食品製品管理ディレクター
テスト・サベリス社

**ヴァネスカ・マトス**
副社長 - 食品安全・品質保証および規制関連業務担当
副社長
ロブロウ・カンパニーズ・リミテッド

**アレハンドロ・マツツ**オッタ博士
チョパニ グローバル品質・食品安全・規制対応担当上級副社長

**ラケル・メデイ**ロス
食品安全責任者 - 化学的汚染物質および包装担当
ネスレ

**カーラ・ミヤト**ヴィツチ
GFSI シニアテクニカルマネージャー
ザ・コンシューマー・グッズ・フォーラム

**フィリップ・ミロ**ジェヴィツチ
アムコール 研究開発マネージャー

**ドム・ミティ**アル
ゴールドバーグス・グループ 食品安全・品質担当副社長

**宮岸**鳥一明
イオン株式会社 食品安全研究所 所長

**ジョン・ニュー**タウン
デジタル・クオリティ・システムズ社 食品安全・品質市場担当ディレクター
ラボウェア

**大久保 勉**
シニアマネージャー、GFSI Japanザ・コンシューマー・グッズ・フォーラム

**フェリペ・オリ**ベイラ
データおよびゲノミクス担当チーフ・オブ・テクノロジーネオプロスペクタ - バイオメリュー

**フランク・パン**ディアニ
GFSIオペレーション責任者
コンシューマー・グッズ・フォーラム

**エイミー・パーク**ス
グローバルFSQAガバナンスおよび規制コンプライアンス担当ディレクター

ドール・ピーエルシー

**ハワード・ポ**ブーラ
副社長 - コーポレート・フード・テクノロジー
および規制コンプライアンス担当、GFSI運営委員会共同議長
The Kroger Co.

**マーク・ポツ**ツラー
BCE、PCQI テクニカルサービス・マネージャー
レントキル・イニシャル

**ビジャン・プ**ール**コ**ミリアン博士
グローバル食品安全・レストラン・流通部門
ディレクター
マクドナルド

**ハネス・ポウ**ゼール
データおよびゲノミクス担当グローバル・ソリューション・アーキテクト
バイオメリュー

**ドナルド・A・ブレ**ーター博士
食品担当首席副局長
米国食品医薬品局

**ロバート・ブレ**ベンダー
副社長 - 食品安全・品質保証最高責任者
ヤム！ブランド

**ダーク・ヴァン・デ**・ブット
モンデリーズ・インターナショナル 会長兼最高経営責任者

**トッド・レ**ッドウッド
BSI コンシューマー・リテール・フード部門
グローバル・マネージング・ディレクター

**リサ・ロ**ビンソン
エコラボ社 グローバル食品安全・公衆衛生担当副社長

**マルコス・サン**チェス
テキサス工科大学 グローバル・フード・セキュリティ准教授

**クリス**ティン・シンドラ
**1PathSpot** Technologies 最高経営責任者兼共同創業者

**ジェーン・シー**バム
最高経営責任者（CEO）、フレッシュケア社

**ファビ**アン・スミス
製品安全・品質・規制コンプライアンス担当グローバル副社長
カーギル

**エブリン・C・ス**ー博士食品安全・消費者保護・政策・プログラム部門 事務局長
カナダ食品検査庁

**ヤニス・スト**イツィス
最高技術責任者
SGSNexus

**ショーン・サ**マーズ
ピック・アンド・ベイ
グループ
CEO

**チャヤ**ニカ・タルクダル
GFSI コミュニティマネージャー
ザ・コンシューマー・グッズ・フォーラム

**ステファン・ト**ロンブ
代表取締役
IFS Management GmbH

**カトリン・ター**ヴィー
キアアカウント担当 グローバル食品安全担当副社長カーシア

**アーロン・ウ**エス**ギ** 博士
主任研究員、グローバル食品安全・品質システム
モンデリーズ・インターナショナル

**ジジ・ヴィ**ータ
SQFIの食品安全評価責任者兼FMIの上級副社長
SQFIおよびFMI（全米食品産業協会）

**ショーナ・ワ**グナー
認証サービス担当副社長兼ゼネラルマネージャー
AIBインターナショナル

**キャロル・ウ**オレス**教**授
食品安全管理学名誉教授セントラル・ランカシャー大学（英国）

**ヴェロ**ニカ・ウ**ェ**ーバー博士
Vion Food Group サステナビリティ最高責任者

**ヤン・イン**・シュ
中国担当ゼネラルマネージャー
コンシューマー・グッズ・フォーラム

ジェレミー・ヤウウツド博士
ネオジェン 最高科学責任者

**アダム・ザ**モルスキー
品質監査担当グローバル・ディレクター
モンデリーズ・インターナショナル

**サマンサ・ゼ**ツッ
スターバックス、小売食品安全業務担当ディレクター



## スポンサー

### 独占パートナー

---



### ダイヤモンドスポンサー

---



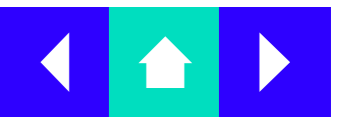
### カンファレンス・スポンサー

---



### 出展企業

---



## 当団体について

70年以上にわたり、コンシューマー・グッズ・フォーラム（CGF）は、業界全体の課題解決に向けて、世界をリードする小売業者と製造業者を結集してきました。

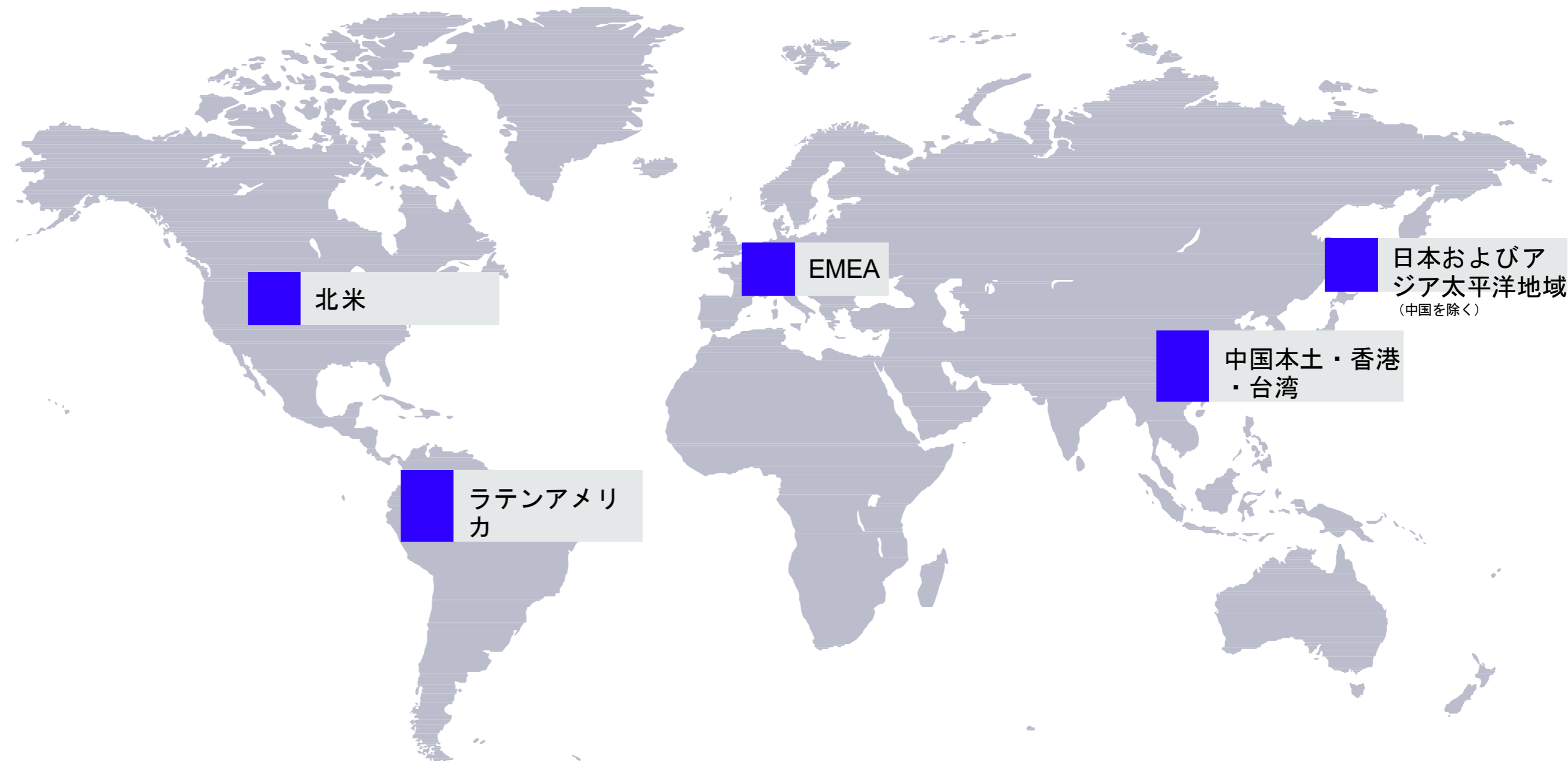
「Better Lives Through Better Business（より良いビジネスを通じて、より良い生活を実現する）」というビジョンを指針とし、私たちの活動は一つの明確な使命によって定義されています。それは、消費財メーカーと小売業者を結集させ、競争を阻害することなく、買い物客、消費者、そして世界に利益をもたらす、業界全体の効率化と前向きな変革を目指すビジネス慣行を追求することです。複雑さが増す現代において、CGFは、リーダーたちが共通の志と影響力のある協働をめぐるためのプラットフォームを提供しています。

## グローバル・フード・セーフティ・イニシアティブ

グローバル・フード・セーフティ・イニシアティブ（GFSI）は、食品業界の主要な関係者を結集し、世界中の食品安全マネジメントシステムの継続的な改善を共同で推進しています。世界中の消費者に安全な食品を提供するというビジョンを掲げ、食品業界のリーダーたちは2000年にGFSIを設立しました。これは、共通の課題、特に食品安全リスクの低減、監査の重複やコストの削減、そしてサプライチェーン全体での信頼構築に向けた解決策を見出すことを目的としています。GFSIは、コンシューマー・グッズ・フォーラム（CGF）の「業界ソリューション」組織です。

[www.mygfsi.com](http://www.mygfsi.com)

[gfsinfo@theconsumergoodsforum.com](mailto:gfsinfo@theconsumergoodsforum.com)





GFSI  
Conference  
Vancouver 2026

# GFSI 2027にご参加ください

次回のGFSIカンファレンス（3月8日～11日）がアムステルダムで開催されます。世界中の食品安全コミュニティと共に、これらの重要な議論をさらに前進させていくため、ぜひご参加ください。

[最新情報の購読](#)

[ウェブサイトへのアクセス](#)

[LinkedInでのフォロー](#)

[メールでの連絡](#)